

楽な弾き方でこそ、豊かな音になる 「ピアノ脱力法」を筋肉の仕組みから徹底説明!

馬場マサヨ

「力を抜くための、力を入れどく」が正しく理解できるよ」「ピアノ演奏における脱力とは具体的にどういうことか」「腕や肩の緊張を解く方法」「ピアノを弾いて前腕が痛くなる原因とその解決法」「脱力してスタカートや和音、トリルを演奏する応用テクニック」などを、イラストや写真を使っ

てわかりやすく解説。西洋で生まれたピアノという楽器を日本人が弾きこなすには、どのような身体を使い方をすれば良いかを、丁寧に解き明かしている。

この奏法の確立に至るベースとなったのは、大学で学生たちを指導してきた経験と、三十年余りにわたるレッスンの経験、そして二十三年間、継続してかわつてきたコンクールでのアドバイスレッスンだ。幅広い年齢層の多くの生徒たちの手や腕の形、演奏姿勢を見てきたことから、脱力について詳述する必要性を痛感した。



「指先を丸く固める、指先を鍛える、小指の手の甲の関節をしっかりと出す」というようなことに小さいころからまじめに取り組んだこ

とで、それが原因でだんだん力が入って弾けなくなってしまう人たちにたくさん出会いました。正しい指の使い方、演奏してれば、ピアノは歳をとってもラクに楽しく弾けるものです。苦勞したにもかかわらずピアノが弾けなくなってしまう人たちがいなくなっ

てほしいという思いから、この本を執筆しました」

既刊の二冊に続く、ピアノ脱力奏法の核心に迫る三作目の完成。それは子どもから大人まで、プロアマチエを問わず、すべての人にとって役立つテーマだ。ピアノ指導者はもちろん、ピアノを学ぶ学生、趣味でピアノを楽しむ人、中断していたピアノを再開しようとする

New Book

目からウロコのピアノ脱力法



GTP01096109
1,600円(税抜)

〈既刊〉

目からウロコのピアノ奏法



GTP01088676
1,300円(税抜)

目からウロコのピアノ指導法



GTP01091970
1,500円(税抜)

発売元:ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス

ばば・まさよ
金城学院大学文学部音楽芸術学科教授。ピティナ(PITNA)正会員。東京藝術大学音楽学部ピアノ科卒業、同大学院音楽研究科修士課程修了。これまでに、NHK交響楽団、オーケストラアンサンブル金沢、名古屋フィルハーモニー管弦楽団ほかと共演。親しみやすいレクチャーコンサートや親と子の名曲コンサートなどを全国各地で行う。著書に「目からウロコのピアノ奏法」「目からウロコのピアノ指導法」(いずれもヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス刊)がある。

人にも、ぜひ一読をお勧めしたい。身体の構造や日本人特有の筋肉の使い方をふまえたピアノ脱力奏法を知ることで、ピアノを弾くことが何倍も楽しくなるはずだ。